

# 甘えるな！甘やかすな

会社の応接室には絵や書が飾ってある。ある時、訪問した会社では横長の布に縦書きの「次郎長十訓（家訓か家憲だったかもしれない）」を壁に飾っていた。その中ほどに「子供の」の一条があった。その一条のみが頭に残った。いつだったか、どこの会社だったかまったく思い出せない。

## 「次郎長十訓」はどいふにあるか

ある会社の応接間にのれんが飾られており、それに「次郎長十訓」が印刷されていた。その一つに「子供の言うことは一切聞くな」とあった。清水次郎長が本当に言った言葉かどうか解らないし、荒田の記憶があいまいで文言はこの通りでないかもしれないが、子育ての名言だと感心した。

四月号のこの欄の文である。のれんではなく細長い布だったので手ぬぐいかもしれない。訪問先の会社の応接室の壁に飾られていた。見たのは確かだが、その会社を思い出せなかった。

静岡清水の観光協会に「そう静にお土産はないか」と問い合わせた。次郎長一家の子分の名を入れたのれんはあるが「十訓」は知らないという。「次郎長翁を知る会」があるの聞いてみるとよいと電話を教えてくださいました。静岡では次郎長は郷土の偉人でこうした資料保存と功績の伝承をする会があることを知った。

電話をしたが会長も会員も不在で留守番電話が「ご用の方はこちらに」と電話番号を教えてくださいました。そこへ電話すると「あら、先ほどの方ですね」と言っただけで電話が切れた。清水観光協会の女性事務員が出た。詳しく事情を話すと「調べたが、詳しく事情を話すと「調べて連絡します」と親切に待たして

荒田は清水次郎長（本名山本長五郎）を東映のチャンバラ映画のヤクザの親分と思っていた。明治以降は街道警固役という国家公務員待遇の大役を受け持ち、富士の裾野の開墾などの社会事業に尽力し、山岡鉄舟の信頼を得て、公のために活躍した。大人物であったことを知った。

その次郎長の子育ての名言を知って、次郎長を尊敬した。

経営管理講座 401 染谷和巳

「子供の言うことは一切聞くな」は現代の子育てにはふさわしくない教えだという反論がある。一人二人ではなく大勢の人が「現実的ではない」と目をそむける。こうした人はおそらく「子供の人権を尊重し、子供の言うことはできるだけ聞いてあげなさい」という教えに賛同するのだろう。

確かに子供の要求や言い分すべてを拒絶するのは現実的ではない。格言や教訓というものは科学から生まれるものではない。人の経験から導き出された「そう言われりや、そんなことあるよね」程度の的中率五〇％の教訓だと思っただけだ。

たとえ「急がば回れ」「急いで事はし損ずる」という格言。危険のともなう近道をして事故にあうことがある。時間がかかって難儀ではあっても安全な道を行くほうがよいという意味。しかし急ぐ時は準備が整わなくても安全

「次郎長十訓」です。清水で活動している「次郎長翁を知る会」の方に照会したところ、結論から申しますと「次郎長が言った言葉ではない」という事です。そのような記録は残っており、違ふだろうという事です。早くに連絡できず大変申し訳ありませんでした。

もし連絡がとれていたとしても、あの文章をそのまま載せていたかどうかと思っただけだ。

## 民主主義の弊害があまりに

人は目先の損得で動く。選挙で当選しないと議員になれないので、候補者は自分に投票してくれとお願いする。

金品を贈る人、選挙期間中（公示後）ではなくそれ以前に文書などで投票を依頼する人は逮捕されたり起訴されたりする。公職選挙法違反が発覚するのは水山の一角で、運よく逃れた人、違反すればのこをしようとしている人

止の「こども家庭庁」も、子を持つ親の支持を得るのが目的である。選挙に勝たなければ議員バツジは付けられない。大局観先見性を持って国の将来を考えて政治を行おうとしても（たとえば原発推進や核保有、憲法改正）、目先の損得で動く人の心には届かない。選挙で投票してくれない。それが解っているのに本音は隠して人々が喜ぶ「公約」を並べる。

民主主義は①話し合い②多数決③選挙制度で成り立っている。国民に選ばれた代議士は国会や政府で、国の主権を守り国益をはかることを求められている。それを本務としている。国のため、国民の将来のために「こうしたほうがいい」と思っていることがいろいろある。

しかしこうした大問題は犠牲をともなうし、強力な反対意見があるので決断できない。国家の大事に目をつぶり先送りして、国民が喜ぶ目先の問題解決に動かしむ。かつて沖縄県の尖閣諸島の乗っ

取りをはかる中国に政府は何の手も打たなかった。東京都知事の石原慎太郎が業を煮やして、個人所有の島を都が買って守ろうと提案。購入費は寄付を募って賄うことにした。たちまち十億近くの寄付金が集まった。

中国に低頭する当時の民主党政権（野田総理大臣）は中国を怒らせたくなかった。あわてて尖閣を国が買い取ることにした。国に尖閣近海への中国船の侵入を黙認。それが現在まで続いている。国防国益よりも、事なかれ主義をとったのだ。

いつしか政治家は敵と真つ向から対決する勇氣と戦意を微塵も持たなくなっていた。さらに弱者優遇の風潮が人々の「たかり根性」を助長した。災害や事故が起こる度に補償と援助を要求する。それを国や自治体を受け入れる。日本人は甘えることを恥と思わなくなった。

「子供の言うことは一切聞くな」などという教えに賛同する人は百人に一人しかいなくなった。

「安保反対」のデモや闘争は国を相手にした甘えの行為であるが、一体化同一化を志向していないのが日本の甘えの構造を逸脱している。と批判している。

## 甘えさせない怖い人が必要だ

五十年以上前、精神科医土居健郎の「甘え」の構造」がベストセラーになった。子供は母親が自分を絶対的に受け入れてくれることがわかっているので甘える。甘えることによつて母親の言語、行動習慣、価値観を身につける。これを「一体化」と呼び、日本人独特の心理の構造だと解説している。

人間関係は甘えと甘えられるが無理なく行われる時うまくいく。お互いにプラスになる。親子関係を原形とし、男女の恋愛関係、友人、教師と生徒、上司部下などの二者の人間関係は「甘え」が相手に自然に受け入れられる時に成立し、これがないと乾燥した無価値な関係になるという。

しかし土居は全学連などによる